



▲①総合型りくぜんたかたが主催するユニバーサルスポーツ体験会の様子。大船渡市のスポーツ推進委員や岩手県体育協会からも運営をサポートしていただきました。②「まつぞのスポーツクラブ」との連携事業です。松園地区公民館でのびっこ療育センターの皆さんとポッチャを楽しみました。地域にある身近な施設で障がいのある人もない人も一緒にスポーツを楽しめる環境作りを進めています。

特集記事

-Special Program-

みんなの卓球バレー・わいわいポッチャ

総合型地域スポーツクラブ連携事業～ユニバーサルスポーツの活用～

総合型地域スポーツクラブとは？

総合型地域スポーツクラブ（以下、総合型 SC）は、身近な地域において子供から高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人々が（多趣味）、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）スポーツクラブです。地域住民により自主的・主体的に運営されています。県内には、約 50 の総合型 SC が設立されています。ご存知でしたか？

総合型 SC との連携事業について

当協会は、障がい者スポーツ振興を通して、様々な課題にアプローチしています。その 1 つが地域におけるスポーツ参加の環境づくりが上げられます。県内には約 250 名の障がい者スポーツ指導員がいますが、その多くは県央部に在住しており、地域におけるスポーツの活動支援を日常的に行うことは困難であると言えます。

そこで、身近な地域のスポーツ振興に取り組んでいる総合型 SC の皆さんと連携して、障がいのある人もない人も一緒にスポーツに参加できる環境づくりを進めていきたいと考えています。

2019 年度の取組みについて

今年度は（公財）日本障がい者スポーツ協会の公募事業である「地域における障がい者スポーツ振興事業」に受託申請を行い、様々な事業を実施しました。総合型 SC との連携事業もこの事業の 1 つです。

期日	総合型 SC 名称	内容
6/ 8 (土)	ノーザンライズ	ポッチャ、パルシューレ
11/14 (木)	まつぞのスポーツクラブ	ポッチャ、卓球バレー
11/16 (土)	ノーザンライズ	ポッチャ
11/18 (月)	まつぞのスポーツクラブ	ポッチャ、卓球バレー
11/20 (水)	まつぞのスポーツクラブ	ポッチャ
11/21 (木)	まつぞのスポーツクラブ	ポッチャ
12/ 9 (月)	まつぞのスポーツクラブ	ポッチャ、卓球バレー
1/25 (土)	総合型りくぜんたかた	ポッチャ、卓球バレー

上記のとおり、今年度は 3 つの総合型 SC との連携事業が中心でした。次年度も継続的、自発的な活動につながるようサポートしていきたいと思えます。このような連携事業には卓球バレー・ポッチャが有効です。最近ではユニバーサルスポーツから共生社会型スポーツと表現されることもあります。障がいの有無に関わらずみんなで一緒に楽しみましょう！

CONTENS



■特集記事

- P1/みんなの卓球バレー・わいわいポッチャ
- P2/障がい者スポーツ特別研修会
- P5/第 33 回岩手県作業療法学会が開催されました
- P6/PT のための中級障がい者スポーツ指導員養成講習会

■活動報告 (P7～P11)

パラリーナ杯・卓球バレー交流大会/第 1 回さんてつカップ/岩手紫波地区身体障がい者団体代議員研修会/第 18 回岩手県精神障がい者バレーボール大会/ニューススポーツ交流会/花巻市障がい者自立支援協議会スポーツ交流会/令和元年度岩手県体育協会表彰式/ふれあい音楽祭 2019/いわてリハビリテーションフォーラム他

■会員紹介 (P12)

ホームページについて

開催要項、申込書データのダウンロードや詳細情報は当協会のホームページよりご覧ください。

URL → <https://www.iwate-adaptive.or.jp/>



お問合せ先：一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会
岩手県障がい者スポーツ指導者協議会
岩手県卓球バレー協会

TEL 019-637-5055 / FAX 019-637-7626

E-mail : info@iwate-adaptive.or.jp

本研修会を開催する目的は？

期日：令和2年1月26日（日）
会場：ふれあいランド岩手（盛岡市）

いよいよ2020年は東京オリンピック、パラリンピックの開催年です。世界最高峰の障がい者アスリートが参加する東京パラリンピック。その目的の1つは、共生社会の実現に向けての大きな1歩を踏み出すこととされていますが、私たちが取り組むべき方向性は不透明であるように思います。その要因として取り組みの方向性が多岐に渡り、多くの価値観が混在していることが考えられます。

そこで、本研修会では「教育」「メディア」「政治」の3つの視点から、パラリンピックの持つ役割について議論し、その価値を高めるとともに共生社会の実現に向けて一人ひとりが歩むべき方向性を照らしたいと考えました。

基調講演の内容（概要紹介）



基調講演 講師：星加 良司 氏
東京大学大学院教育学研究科准教授。5歳の時に全盲となるが小・中・高ともに普通学校に通う。国・自治体の障害施策関連の委員を多数務めるほか、障害や多様性に関する先端的な知の社会還元を進める観点から、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会との共同プロジェクト『心のバリアフリー』教育の講師養成講座等を展開している。

最初に東京大学の星加良司先生の基調講演の概要をお知らせいたします。なお、内容要約の都合上、所見も加えておりますのでご了承ください。

*どのように行動するか？その前に考えよう

→星加氏には、東京パラリンピック（以下、東京パラ）の成功、特に終了後、社会に良い変化をもたらすために「必要となる考え方」を中心にお話いただきました。

→これは、「〇〇をしましょう、〇〇してください」とかではなく、もっと根本的な広義的な理解が広まることにより行動する方向性が見えてくるということを様々な事例とともに紹介していただきました。

*「ユニバーサルデザイン行動計画2020」について

→この計画には「心のバリアフリー推進」と「ユニバーサルデザインの街づくり」の2つの柱がある。特に心のバリアフリー推進の理解が重要となり、国が示した3つの指針について説明する。

- ①障がいの社会モデルの理解
- ②法的枠組みのルール（合理的配慮）の徹底
- ③他者への共感力を身につける。

一般的には、障がい者を見かけたらお手伝いしようと考えますが、上記には書かれていない。では、どういうことなのか。

*障害の社会モデルについて

→中でも①の障害の社会モデルの理解が重要である。これまでは障がい者の困りごとの原因をその人自身の障害（機能障害）があるからとしてきた（＝障害の個人モデル）が、考え方を転換して、その人の機能障害が問題なのではなく、周りの社会が機能障害に対応できるように設計できていないことが問題（＝障害の社会モデル）、とする考え方である。
→共生社会という言葉は1980年代から使われているが、いまだに目標とされている。つまり、達成するのは非常に困難であること。その原因の1つに多数派のために設計された社会がある。多数派は少数派の困りごとに関感しづらい仕組みがある。ここで、障害者の村という寓話を紹介する。

*障害者の村の寓話（イギリスの社会学者が作成）

→この村の住民の大部分は車いすユーザーであった。皆さんはバリアフリーの進んだ村をイメージすると思うが、その話題は一切出てこない。ただ1つ、天井の高さがやたらに低い。たしかに車いすに座った状態であれば、天井はある程度低くて良い。しかし、少数派の二足歩行の人間には、様々な問題が発生する。天井に頭をぶつけてけが人が続出。また、腰痛に悩む患者が急増。そこで、車いすユーザーの有識者たちは対策会議を開く。「かわいそうな二足歩行者にヘルメットを支給しよう」とか、「そもそも二足歩行が問題なので邪魔な足を切って車いすユーザーにしようとか」
→障害者の村の寓話は、滑稽に感じたり、違和感を覚えたりするかもしれませんが、それは皆さんが多数派の中にいるからであり、少数派の世界では、現実に起こっていることなのです。

→このように、そもそもの出発点の感覚がずれていると、何を取り組もうにも、目指すべき方向性がずれてしまう恐れがある。上記をふまえた上でもう1度、バリアフリー推進に必要な①～③の3つのポイントを考えてもらいたい。最初の認識がとても重要であるということが理解いただければと思う。

*「危うい」コンテンツとしてのパラリンピック

→パラリンピックは極めて感動のストーリーを作りやすいコンテンツである。競技と出会い、自身の障害を乗り越え、周りの支えに感謝しながら、努力を重ね、遂に国の代表として夢を成し遂げるという鉄板の感動のストーリー。しかし、「障害を乗り越える」ということは、先ほど示した障害を「個人モデル」として捉えていることに限りなく近い。つまり、パラリンピックの感動ストーリーは、伝え方を誤ると障害の個人モデルを強調してしまう可能性がある。
→ロンドン大会を契機にパラリンピック選手を「スーパーヒューマン」という表現するようになった。スーパーとは、障がいのないアスリートと比べてスーパーなのではなく、お茶の間の健常者と比べてのものであると指摘されている。ここにもある種、障がい者は様々な事ができない人という前提のもとに、「スーパー」と表現している。これも障害の個人モデルに引き寄せられやすいところである。

*未来に向けた社会変革のために

→目指すべき方向性を「社会モデル」の理解に変えていくためには、パラリンピックをどのように受け止めたら良いのか。それが「公平」である。障害のある方が今、困っているのは、現実の社会が「公平」になっていないからである。これが社会モデルとしての考え方であり、スポーツイベントというコンテンツそのものが、そうしたことを考えるヒントを与えてくれる。

→スポーツは、様々な人が競い合う際、公平なルール、レギュレーション、レフェリングなどこれまでのスポーツの歴史の中で積み重ねてきている。パラリンピックがなぜオリンピックと別開催なのか、スポーツは誰が参加することを前提にルールが作られているか、パラリンピアンが職場や身の回りにいないのはなぜかなど、スポーツの中にヒントがたくさん隠れている。

→ラグビーのナショナルチームの作り方は、国籍主義ではなく別の考え方が用いられている。パラ競技の中でも、競技力を公平化・標準化するためのレギュレーションが設けられたり、最近では、男女混合競技が増えている。これが最も進んでいるのは競馬である。

*最後に

→公平な社会を目指す際のヒントがスポーツの中に隠れている。2020年、自国開催となるパラリンピックを見た私たちが、終わった後のレガシーとしてそれを追求して、考えていくなききっかけとするイベントとして捉えたい。また、社会に広めていかなければならないと考えている。



▲基調講演を行う星加 良司 氏（左）、本研修会のファシリテーターを務めた橋本 大佑 氏（右）

パネリストからの話題提供①



パネリスト：山田 潔 氏

NHK放送文化研究所メディア研究部研究主幹。1983年NHKに入局。著作権部・法務部など法務関係の業務を経て、2012年から現職。1歳で罹ったポリオの後遺症による両下肢障がいの当事者として、2016年度から障がい者スポーツと放送の研究に取り組む。

山田氏からは、「パラリンピックと報道～障がい当事者の声からメディアのあり方を考える～」と題して所属する研究所が行った世論調査やWEBアンケートの結果等をもとに山田さん個人の所見を加えながら、ご提言いただきました。

*東京オリパラに関する世論調査（2016年から継続実施）

→2017年10月調査（2回目）で、障がい者スポーツについて、障がい者の有無にかかわらず70%前後の人が「選手の頑張りに感動する」と回答。一方で「見ていて楽しめない」「面

白さがわからない」という障がい者が10%で、健常者のおよそ2倍あった。

→少し異なる障がい者の受け止め。

*パラリンピック放送に対する身体障害者の声

→平昌パラリンピック後にWEB調査を実施し、視覚・聴覚・肢体不自由を中心に分析。

→視覚障がいも含め全ての区分において、情報源はテレビ視聴が中心、視聴理由は障がいとは関係ない「日本人選手が活躍」（4割台）や「スポーツを楽しみたい」（3割台）が多い。障がい者スポーツの側面の理由は少な目で分散傾向。

→「自分自身の気持ちへの影響」に関しては、「障がい者スポーツをもっと見たくなった」が比較的高い（3割～5割）反面、「自分の境遇にギャップを感じた」も3割前後あった。

→「周囲との話題」を聞いたところ、約半数の人が、パラリンピックを話題にしていないことが分かった。

→自由記述でも、「励みになった」「障がい理解につながる」といったポジティブな意見も多い一方で、「障がい者をひとくりにすることに疑問」「デフリンピックの報道が不十分」「パラアスリートが集中的に扱われることは障がい者の格差・差別を生む」等、違和感も表明された。

→障がい者のパラリンピックとの距離は様々、受け止め方も多様である。

*終わりに

→2020年パラリンピックでは、スポーツとしての魅力を伝える競技中継等多くの番組が放送され視聴者に影響を与える。自国開催は、無関心を打破する大きな力となる。

→しかし、ここで伝えられるパラリンピアンが必ずしも障がい者の代表イメージでない。多様な障がい者像をどう一般に広めていくかが課題である。

→平昌パラリンピックでは周囲と話ができなかったが、東京パラリンピックを、「障がいとは何か」を話し合う土壌にできればよい。当事者に寄り添い支える周りの言葉も重要。

パネリストからの話題提供②



パネリスト：横澤 高德 氏

モトクロス国際A級ライセンス取得後の1997年、練習中事故により脊髄損傷、車いす生活となる。2010年、バンクーバーパラリンピック日本代表。アルパンスキー男子大回転座位21位。2019年7月、参議院選挙岩手選挙区に野党統一候補として立候補し、初当選。パラリンピアン初の国会議員となる。

*車いすの国会議員として

→参院選への立候補の理由は、単純です。冬に街へ出かけると、道路の雪で横断歩道の途中で車いすでは進めなくなってしまう。何年たっても変わらない街を変えたい。それがきっかけでした。おかげさまで当選することができました。八代英太さん以来19年ぶりの車いす議員です。八代さんの他、聴覚に障がいのある斉藤りえさんはじめ、障害のある議員とのネットワークを作り、様々な取組みを実施しています。

*国会での活動

→参議院ではれいわ新選組の船後さん、木村さんと私の3名の車いす議員が誕生し、3人で情報共有しながら連携する取組みを行っています。議会議場は、バリアフリー対策として改修を行うことになっています。

→所属している文教科学委員会では障がい者スポーツだけでなく、文化芸術にも意見を述べたい。震災復興特別委員会に関しては、先日の台風19号では、お亡くなりになった方の約7割は障がいのある方であったと言われており、災害弱者の支援についても当事者として考えていきたい。

→国会の活動とは別になるが、これまでも取り組んできた小中学校におけるオリンピック・パラリンピックを通したインクルーシブ教育取り組んでいきたい。

最後に（八代英太氏のメッセージを要約）

→障害を受けることは、それ自体は必ずしも不幸ではない。それよりも障害により、共に学び、共に働き、共に地域社会で平等に参加する機会が妨げられる現状が不幸なのである。それは障害を受けた本人だけの不幸ではなく、社会全体の不幸である。なぜなら、弱い人々を切り捨てる社会は、弱く、もろい社会だからである。障害を受けた人々が、社会的ハンディキャップを背負わなくても済むような、更には、日本の社会から障害者という言葉が必要ではなくなるように、今こそ力強い歩みを始める時だと思うのである。

パネルディスカッション



ファシリテーター：橋本 大佑 氏
一般社団法人コ・イノベーション研究所代表理事。筑波大学卒業後、ドイツに渡り、車いすスポーツを通じた障害児・者への導入指導方法について学ぶ。2009年に帰国後、国内において障がい者スポーツの導入における指導の開発・普及に取り組む。ドイツで師事したホルスト・ストローケンデル先生の理念を実践するために法人設立。

最初にファシリテーターを務める橋本さんの進行により、パラリンピックに関する6つの話題についてパネリストからのコメントをいただいた。その後、会場からの質疑を含めたディスカッションを行った。以下は、紙面の都合上、今回は3つの話題に集約させていただきますのでご了承ください。

*東京オリパラ招致決定以降、感じていること

（橋本）2013年、東京オリパラ招致が決定したときに期待したこと、不安に思ったことなどお聞かせください。

→パラリンピックをメディア・教育コンテンツとして捉える場合の能力主義的な価値観の広がり、障害の個人モデルの強まり、また予算がパラに集中して、その他の生涯スポーツに光が当たるかなど様々な懸念の声が出たのも事実。

→1964年の1回目の東京パラ当時は小学生だったが、パラリンピックがカッコ良いものと感じられなかった。

→2014年はソチパラリンピックを目指していた。当時はスポーツの所管が健常者、障がい者と分かれており、予算も違い選手負担が大きかった。また、放送枠も僅かで新聞等も社会面での記事掲載であった。変わるきっかけになると思った。

*パラリンピック大会への不安

（橋本）障害当事者に対する様々なアンケートデータは、ポジティブな声が少ない。この要因をどう感じるか？

→直感的な感覚としては、障害者への理解が進み、障害者に対して手を差し伸べようというトレンドが、困っている人、困っていない人という上下の図式の中で行われ、違和感を示す障害当事者もいるのではないかと。

→パラリンピックに出場する選手は、一部の障害種別であり、

すべての障害を網羅している訳ではなく、障害への理解というキーワードに対しては抵抗感があるのかもしれない。

*パラリンピックをどう活用し、周囲に伝えるか

（橋本）パラリンピックの負の側面を回避し、障害当事者を含め、すべての人に素晴らしさを伝えるために何が必要か？

→官民、国民からこれだけの注目を集めているイベントである。ポジティブな声、課題を丁寧に分析して次の世代に伝えていくことが大切である。

→選手サイドから言えば、競技団体からの手厚い支援がある。しかし、2020以降の支援の形を注視していく必要がある。

→障害の理解について考える機会は圧倒的に増えている。東京だけでなく、岩手でこれだけの人が集まり、このような話し合いができていくことは、パラリンピックの効果と言える。

→オリパラと一緒にすべきとは思わないが、競馬は大きなレースでは、オスとメスが一緒に競い合う。実は斤量に差をつけて競うのだが、競馬ファンは誰も文句を言わない。なんで人間は男女を分けるのか。オリパラを分けるのか。パラリンピックは、そういうことを考えるきっかけになる。

会場からの質疑（一部紹介）

*特別支援学校とインクルーシブ教育についてどう考えるか

→1つの学校で障害の有無に関わらず学ぶことができることは理想。現状は、医療的体制の問題に代表されるようすべてを一緒にすることは困難。大切なのは、選択する権利があり、就学の機会が確保されることだと思う。

*ノーマライゼーションは肢体不自由が優先傾向にある？

→そのとおりと思う。ユニバーサルデザインを推進しているが、手すりや点字ブロックがない等、行き届かないところがある。様々な障害当事者の意見を伺いながら取り組むべき。

*障害の社会モデルの理解促進も大切だが、自身の感謝や謙虚な気持ちも重要（障害当事者からの質問）

→人との関わりの中で謙虚さは大切だが、障害者だけが謙虚になる必要はない。障害のない人に都合の良い社会だから、手伝ってもらわなければならない。それを変える取組みはあってよい。その中でお互いに気持ち良い関係を作ることが大切。その意味でご指摘のとおりだと思う。

*NHKのプラス番組は素晴らしく多くの人に周知したい

→放送局としては、是非見てもらいたい。これだけ多くの番組がある中で放送枠を見つけるのは大変と思うが、HP等様々な発信しているので利用していただきたい。

終わりに→このシンポジウムの企画段階から運営まで多大なるご協力をいただいた一般社団法人コ・イノベーション様にあらためて感謝を申し上げます。最後に、講師、パネリストの皆さま、ご来場いただきました皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございました！



▲パネルディスカッションでは活発な意見交換が行われた。左から横澤高徳氏、山田潔氏、星加良司氏、橋本大佑氏

第33回岩手県作業療法学会が開催されました

期日：11/16（土）／会場：花巻市定住交流センター「なはんプラザ」



▲①11/16（土）、JR花巻駅近くの花巻市定住交流センター「なはんプラザ」を会場として開催された。②作業療法士の間でも注目を集める卓球バレーの実演も行った。会場には卓球台がなく長テーブルにて代用。プレーに夢中になり、ややスタンディング気味の方も！

今年度のテーマは「地域とともに生きる～作業療法士の活き方～」

日頃から、作業療法士（以下、OTという）の皆さんには、当協会の様々な事業において、活動支援をいただいています。今回、岩手県作業療法士会（以下、県士会という）より第33回岩手県作業療法学会での講演依頼を受け、参加してまいりました。

学会のテーマは「地域とともに生きる～作業療法士の活き方～」です。今年度、県士会では、圏域ごとのOTの活動促進を目的として支部組織の見直しを行ったと伺いました。地域のニーズを知り、自らが技量と研鑽を重ね、地域に必要とされることにより、存在意義を高めることが「活き方」の意味に感じました。

当協会は、教育講演Ⅱにおいて演題を「障がい者スポーツ現場におけるOTとの連携」としてお話させていただきました。講演後には、ユニバーサルスポーツとして注目を集める卓球バレーの実演を行いました。

会場には、卓球台がなかったため、長机を使用しました。地域での訪問教室では、卓球台がない会場もあるため、実例を示す良い機会となりました。

また、実演を通して卓球バレーは、運動機能が制限を受ける方でも競技として取組める特性があることは即座に理解されたと思います。加えて健常者も一緒に楽しめる種目であることを実感していただければ幸いです。主なプログラムは以下のとおりです。

時間	内容
10:20～11:50	教育講演Ⅰ 「主として身体を越えよう」～障害・高齢者の心身孤立化対策として集団のアプローチ 講師：茨城県立医療大学附属病院 名誉院長 大田 仁史 氏
11:50～12:00	日本作業療法士連盟の紹介・支援について
13:00～13:50	一般演題発表セッションⅠ・Ⅱ
14:00～15:00	一般演題発表セッションⅢ・Ⅳ
15:10～16:40	教育講演Ⅱ 「障がい者スポーツ現場におけるOTとの連携」 講師：一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会 事務局長 三浦 拓朗 氏
16:50～17:00	学会表彰

OTとの連携事業について

本県におけるOTと障がい者スポーツの関わりは、いわてリハビリテーションセンターにおいて利用者に対し、チェアスキーを勧めたことが始まりと聞いている。このチェアスキーヤーは後にバンクーバーパラリンピック出場。現在は国会議員となった。

近年においては、希望郷いわて大会の選手強化事業において、多くのOTがスタッフとして参加している。特にこの選手強化事業と先述の卓球バレーのオープン競技実施についてはOTの活躍なくして実現には至らなかったでしょう。

また、ユニバーサルスポーツの代表と言われるボッチャや卓球バレーの体験教室他、体験交流イベント運営等の事業も積極的にサポートしていただいている。当初は、競技スポーツが中心であったが、現在は普及教室等の裾野を広げる取組みに関わるOTが増えてきている。以下、画像参照。



▲①8/4、夢アリーナたかた（陸前高田市）／サントリー・チャレンジスポーツ体験教室、②9/29、安比高原／ハンドバイク体験教室、③10/5、岩手県営体育館／車いすバスケットボール日本選手権ブロック予選会、④10/19、ふれあいランド岩手／卓球バレー指導者養成講習会・・・その他、多くの事業に参加協力いただいた。

PTのための中級障がい者スポーツ指導員養成講習会を開催しました!

理学療法士と障がい者スポーツ

障がい者スポーツ振興における理学療法士（以下、PTという）との関わりは一般的には、競技性の高い分野での連携、いわゆる「トップチームのトレーナー」というイメージが一般的かもしれませんが。しかし、このイメージは、むしろ障がい者スポーツ関係者の方が強く、このことがPTとの連携が進んでいない要因の1つになっているように思います。

これまでに多くのPTの皆さんと関わる機会がありましたが、ほとんどの方が様々な障がい者スポーツの活動現場への参加意識や貢献意欲が高く、連携の機会を求めているように感じています。

そこで、今回の講習会をきっかけに競技力向上の取組みに加え、スポーツ導入をはじめ、裾野を広げる取組みにおいても連携協力を進めていきたいと考えています。

通常の半分のカリキュラムで取得可能

この講習会は（公財）日本障がい者スポーツ協会の委託事業で、当協会での受託は、昨年に引き続き2回目となります。今回の受講者は、県内9名、青森1名、秋田2名、埼玉1名の合計13名でした。比較的若い世代が多く、障がい者スポーツ活動の現場経験のない方もおりました。

通常の初級障がい者スポーツ指導員を対象とした中級講習会と比較すると約半分のカリキュラムの4日間で資格取得でき、また、初級資格の有無や活動実績も不要なので、

すでに専門知識を有するPTにとっては、魅力的な講習と言えます。しかし、講習終了後には、実際のスポーツ現場に出向いての活動実績とレポート提出が必要となります。

レポート作成にあたっては、主に当協会から提供される県内の障がい者スポーツの活動情報に従い、現場に出向いていただきました。それぞれ全国障害者スポーツ大会の団体競技チーム練習会やボッチャや卓球バレーといったユニバーサルスポーツを学ぶ機会になったようです。また、すでに活動している指導者との接点ともなり、このことが活動継続につながることを期待されます。

最後になりましたが、実践的な講義をしていただいた講師の皆さん、また、講習会開催にあたり、共催団体としてご協力をいただいた（一社）岩手県理学療法士会様に心より感謝を申し上げます。



▲①13名の精鋭たち（受講者）②障がい者スポーツ指導上の留意点。風船を使い、スモールステップの指導法を学びました。③車いすスポーツの実習では、基本の操作方法からゲームの作り方。最後にはキャスター上げの指導方法も。④視覚障がいのスポーツ実習では、平昌パラリンピックに出場した高村和人選手をお招きして、実際に使用しているビームライフルの練習機材で競技体験を行いました。

PTのための中級障がい者スポーツ指導員養成講習会日程表及び講師一覧（@ふれあいランド岩手）

期日	科目	氏名	所属・役職等
12月7日（土）	聴覚障がいの概要	白藤 友一	岩手県立盛岡聴覚支援学校教諭
	スポーツ心理学	内城 寛子	富士大学経済学部経営法学科専任講師
	一般卓球	佐々木 茂	ふれあい卓球クラブ代表
	サウンドテーブルテニス	新沼 與一	岩手県卓球協会障がい者スポーツ委員会
	全国障害者スポーツ大会の概要と障がい者スポーツ指導者について 全国障害者スポーツ大会の障害区分	佐藤 敬広	東北文化学園大学医療福祉学部保健福祉学科准教授
12月8日（日）	障がい者スポーツと理学療法 トレーニングの基礎知識	福士 宏紀	シーキューブ訪問看護リハビリステーション理学療法士 ※日本スポーツ協会公認アスレチックトレーナー、日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツトレーナー
	知的障がいの概要	長葎 康紀	岩手県立療育センター相談支援部発達障がい支援係長
	スポーツ栄養	秦 希久子	盛岡大学栄養科学部栄養科学科准教授
	精神障がいの概要	佐々木 昇	盛岡市立病院作業療法主査
1月18日（土）	フットベースボール	及川 潤	SWS東日本（岩手県フットベースボールチーム監督）
	障がい者スポーツ指導上の留意点	橋本 大佑	一般社団法人コ・イノベーション研究所代表理事
	重度障がい者スポーツの実習		
1月19日（日）	車いすスポーツ実習		
	視覚障がいの概要	高村 和人	岩手県立盛岡視覚支援学校教員 ※平昌パラリンピック冬季大会日本代表
	視覚障がいのスポーツ	大和田 洋平	ラッセル岩手キャプテン 他
	車いすバスケットボール フライングディスク	井上 君之	岩手県障がい者フライングディスク協会副会長兼競技委員長

パラリーナ杯・卓球バレー交流大会を開催しました

- ◆期日：令和元年11月3日（日）
- ◆会場：岩手県勤労身体障がい者体育館（パラリーナ）
- ◆レポート：パラリーナは岩手県勤労身体障がい者体育館の愛称である。所管が岩手県文化スポーツ部となったため、「勤労」という名称が変わる可能性もある。さて、パラリーナ杯は2年ぶりの開催となった。日頃から大会に出場している卓球バレーチームをはじめ、老人クラブチームや小学生を含めたチームなどバラエティに富んだ8チームが参加し、卓球バレーを通しての交流を行った。本県の卓球バレーの歴史において欠かすことのできない「金ヶ崎チーム」。年々平均年齢が上がり、いよいよ80歳を超えた。それでもまだ上位に食い込む力がある。今回は惜しくも準優勝であった。



▲事実上の決勝戦。さんさ（左）対金ヶ崎（右）。好ゲームを展開した。主審は珍しく三浦が務めた。

卓球バレー宮古交流大会『第1回さんてつカップ』を開催しました

- ◆期日：令和元年11月4日（月祝）
- ◆会場：宮古市民総合体育館（シーアリーナ）
- ◆レポート：宮古市での卓球バレー交流大会は3年連続開催である。地域大会はオールフリールール（障がいの有無に関わらず参加OK）を採用している。運営は、県内各地の卓球バレー審判や共催団体としてご協力いただいたレインボーネット、作業療法士等の皆さんにサポートいただいた。また、今年度より、大会の愛称を三陸鉄道にちなんで「さんてつカップ」とした。今後も市民、県民に愛される大会となるよう障がいの有無、年齢・性別、地域などを問わず参加を募っていきたいと思う。試合は、各クラス4チームの総当たりで行った。



▲会場は宮古市民総合体育館の多目的室。多目的室といっても、バスケットボールコート1面は取れる。②アスレクト（手前）対アマリNZ（奥）。アマリNZは久慈市から参加。第1セットは14対14に！結果はアスレクトが自力を発揮し、勝利。③かねはま（手前）対385みやご（奥）の同門対決！両チームとも見るたびにレベルを上げています。

岩手・紫波地区身体障がい者団体代議員研修会に参加しました！

- ◆期日：令和元年11月6日（水）
- ◆会場：ホテル紫苑（盛岡市繫）
- ◆レポート：岩手・紫波地区（盛岡広域圏）の身体障がい者団体、事務局の社会福祉協議会の皆さんを対象にポッチャ教室を開催。ポッチャはコートサイズを工夫することによって、どんな会場でも実施することが可能である。特に運動制限のある方には、広い体育館ではなく、会議室等を利用した楽しみ方もあると好評であった。



▲ホテルの宴会場でポッチャです。ミニコートでも十分に楽しめることを体験。すぐに真剣モードに突入しました！

第18回岩手県精神障がい者バレーボール大会を開催しました

- ◆期日：令和元年11月8日（金）
- ◆会場：滝沢総合公園体育館（滝沢市）
- ◆レポート：本大会は次年度の北海道・東北ブロック予選会への出場権を争う大会であるが、各チームの競技レベルの差に配慮して、クラス分けを行っている。これは、卓球バレー大会において採用している2つのクラス、競技性の高い試合を希望するチャレンジクラスと親睦・交流を希望するわんこクラスである。これにより、参加チーム数は増加傾向にある。今年のチャレンジクラスはY SVC（旧岩手やんベスピリッツ）が3連覇を達成した。わんこクラスも大いに盛り上がりを見せた。



ニュースポーツ交流会（平泉町教育委員会主催）に参加しました！

◆期日：令和元年11月15日（金）

◆会場：長島体育館（平泉町）

◆レポート：この交流会の主催者である平泉町教育委員会の依頼でポッチャの講習会に参加してきました。教育委員会では、ユニバーサルスポーツの1つであるポッチャを地域のスポーツ交流事業への導入を検討しているとのこと。今回の参加対象は、各行政区の地区スポーツコーディネーターが中心で学校帰りの小学生も参加して和気あいあいとした雰囲気で行われました。

まずは参加者に正式ルールのコートとミニコートを作成いただきました。その後、各行政区の4チームに分かれて、選手と審判に分かれて試合を行いました。両方のコートでプレーをしてみるとコートサイズによるゲーム特性が十分に理解できたように思います。最終試合は大人チームと子どもチームがアイスクリームをかけて対戦。最後の最後に勝利した子どもたちは、見事にアイスクリームをゲット？したのです。



▲①開会式にて、②最初はコート作りからスタートしました。1つは正式ルールのコートサイズ（6m×10m）を作成。③1つはミニコート（4m×4m）の2つを用意。その後、2つのグループに分かれてそれぞれのコートでのプレーを体験しました。④大人チーム対子どもチームの真剣勝負の行方は？

花巻市障がい者自立支援協議会主催のスポーツ交流会に参加しました！

◆期日：令和元年11月16日（土）

◆会場：湯本振興センター（花巻市）

◆レポート：花巻市障がい者自立支援協議会が中心となり、参加者を募り、60名ほどの参加があった。同協議会には身体・知的・精神の障がい者団体や事業所が会員となっている。指導は、花巻総合型SCの「ノーザンライズ」に担当していただいた。この事業をきっかけとして、総合型SCと地域の福祉関係者がつながり、様々なスポーツ交流が広がっていくことを期待しています。



令和元年度岩手県体育協会表彰式に参加しました！

山崎武さんが功労賞、大井利江さんが栄光賞を受賞！

◆期日：令和元年11月21日（木）◆会場：サンセール盛岡（盛岡市）

◆レポート：当協会の関係者から2名が受賞しました。まず一人目はジャパンパラ陸上大会砲丸投げで見事優勝した洋野町の大井利江さんです。昨年に引き続きの受賞となりました。また、大井さんはドバイで開催された世界パラ陸上選手権では第5位ということで東京パラリンピック内定条件（4位以内）を惜しくも満たすことができませんでした。しかし、今後の成績によってはまだ十分にチャンスがあります。報道機関も多く取材に訪れており、期待の大きさがわかります。是非、東京パラ出場目指してがんばってほしいですね。

もう一人は山崎武さんが功労賞を受賞しました。山崎さんはまさに本県の障がい者スポーツの顔と言える存在です。車いすバスケットボールチーム・ラッセル岩手の結成当時から長年に渡り選手として活躍。最高成績は全国大会3位だったそうです。その後は監督として希望郷いわて大会にも出場しました。この他、当協会の前進団体では、障がい者スポーツの普及振興に長年貢献されております。山崎さんの足跡はしっかりとわれわれにも引き継がれております。また、その親しみのある人柄からスポーツ関係者以外からも愛される存在です。受賞されたお二人にあらためてお祝い申し上げます。



▲①会場となったサンセール盛岡、知事挨拶。②プレゼンターの連増知事より、功労賞を受け取る山崎武さん、③栄光賞の受賞者の記念撮影。前列向かって左端が大井利江さん、④取材を受ける大井さん。やはり、東京パラリンピックの話題が中心です。

ふれあい音楽祭2019が開催されました！

◆期日：令和元年11月30日（土）

◆会場：ふれあいランド岩手（盛岡市）

◆レポート：この、ふれあい音楽祭は障害者週間記念事業である岩手県障がい者文化芸術祭の1つのプログラムとして開催されます。当協会が設立される前、岩手県障がい者社会参加推進センターとしてスポーツ振興の他、文化芸術も担当しておりました。その関係でこのイベントのお手伝いは欠かせません。現在の受託団体は岩手県社会福祉事業団となっておりますが、ご迷惑でなければこれからもお手伝いさせていただきたいと思っております。また、スポーツは障がいのある方の生活に潤いを与え、社会参加のきっかけとなる媒体ですが、他にもいろいろな媒体があります。その1つが文化芸術であり、趣味や娯楽も同様です。よって当協会として、スポーツの分野以外にも様々な活動に関わることは重要な取組みであると考えています。今後もジャンルを問わず様々な活動に障がいのあるなしに関わらず多くの方が参加し、交流する機会を作っていきたいと思っております。



▲①いよいよ開演！進行は盛岡第三高等学校の生徒さんが務めます。②トップバッターは盛岡視覚支援学校音楽クラブの皆さん、③音楽祭の常連、のびっこ療育センターの和太鼓演奏、④コールひまわりの合唱、⑤車いすダンス協会によるダンス発表、⑥盛岡聴覚支援学校の「KING GUNS and ROGUE GUNS」、⑦盛岡杉生園の皆さんによる「パーフェクトヒューマン」会場の盛り上がりがすごい！⑧今年のラストステージは岩手県警音楽隊が務めました。圧倒的なパフォーマンスにビックリ！※すべての団体を紹介できなくて申し訳ありません。

いわてリハビリテーションフォーラムが開催されました

◆期日：令和元年12月1日（日）

◆会場：いわて県民情報交流センター・アイーナ（盛岡市）

◆主催：（公財）いわてリハビリテーションセンター

◆レポート：400名近い参加者の下に開催されました。今回のメインテーマは「～オリンピックだけじゃない！しょうがい（生涯・障がい）スポーツを楽しもう！～」です。東京オリパラの開催が間近となり競技スポーツが注目されています。本フォーラムでは、今後、年齢・性別や障がいの有無を問わずにスポーツを楽しむためには、地域において、どのような取り組みが必要かを実践者や実際に普及促進など支援に関わっている方々とのトークセッションにより、参考となる事例紹介とともに意見交換を行いました。

なお、このトークセッションの後に、Dr. KAKUKO スポーツクリニック院長 中村 格子 先生が「10歳若く見える！きれいな姿勢のつくり方」と題して講演を行いました。



▲トークセッションの様子、左から当協会の三浦、車いすバスケットチーム・ラッセル岩手主将・大和田洋平さん、雫石町在住で91歳のマラソンランナー・野々村信吉さん、右は進行を務めた、いわてリハビリテーションセンター・上田大介さん

障がい者スポーツ体験教室を開催しました！

◆令和元年12月14日（土）

◆会場：仙北小学校（盛岡市）

◆レポート：6月に続き、PTA対象の体験教室を実施した。種目は保護者と相談しながらボッチャ、卓球バレー、車いすバスケットボールの3つ。指導には総合型スポーツクラブ、当協会、ラッセル岩手（車いすバスケットボールチーム）があたった。各種目ともに生徒と保護者にはいい経験になったようだ。この他にも学校やPTAからのリクエストが増えており、この新たなニーズは、障がい者スポーツ指導員の活動機会を広げていく可能性がある。今後も様々な団体からのニーズ調査と指導者とのマッチングを進めていきたい。



卓球バレー指導者クリニックに参加しました！

- ◆令和元年 12月21日（土）
- ◆会場：東北工業大学一番町ロビー（2階ホール）
- ◆レポート：日本卓球バレー連盟東ブロックの主催事業で初めての試みとなった「卓球バレー指導者スキルアップクリニック」には、東北や関東、遠くは大分から45名が参加した。第1部の座学では、普及活動やルールの講義、第2部の実技では、3グループに分かれてテーマ別の実技講習を行った。そして、恒例の懇親会も大いに盛り上がったのであります。卓球バレーの仲間たちは皆熱いですね～



日本ボッチャ協会公認サポーター養成講習会を開催しました！

奥州市会場

- ◆令和2年1月12日（日）
- ◆会場：前沢いきいきスポーツランド（奥州市）
- ◆レポート：日本ボッチャ協会公認のサポーター養成講習会を2日間に渡り、開催。奥州市会場は会場予約から当日の運営まで奥州市スポーツ推進委員協議会と総合型地域スポーツクラブ「前沢いきいきスポーツクラブ」にご協力をいただいた。講師は日本ボッチャ協会強化部長であり日本代表チームヘッドコーチの村上光輝さんに務めていただいた。受講者は地域のスポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ、作業療法士、理学療法士、支援学校教員とバラエティに富んだ皆さんであった。

一関市会場

- ◆令和2年1月13日（月）
- ◆会場：一関市総合体育館（一関市）
- ◆レポート：昨日に引き続きサポーター養成講習会を一関市総合体育館に会場を移し開催。一関地方スポーツ推進委員協議会の共催事業として実施し、会場費は無料となった。参加者は市のスポーツ推進委員、理学療法士、作業療法士、特別支援学校教員に加えボッチャ選手等も参加。講師は昨日に引き続き村上光輝さんが務めた。なお、日本ボッチャ選手権の東日本ブロック予選会をこの一関市総合体育館で開催することで調整を進めている。正式決定した折には、今回の受講者の皆さんにもご協力をいただきたいと思います。



▲①講師の村上光輝さん。一般的な投球ホームを実演。しかし、その人にとって投げやすい方法が重要とのこと。②紙ボッチャゲームでまずはボッチャの魅力を知る。③一関市会場にも多数の方が参加。④実技はお子さんと一緒に楽しんだ。

ユニバーサルスポーツ体験会に参加しました！

- ◆令和2年1月15日（水）
- ◆会場：一関市総合体育館（一関市）
- ◆レポート：この体験会は一関市障がい者スポーツ協会が中心となり、企画から運営までを行った。昨年に引き続き、2回目の開催である。種目はフライングディスク、スポーツ吹矢、グラウンドゴルフ、ターゲットバードゴルフ、卓球バレーを行った。参加者は地元の身障団体、老人クラブ、事業所等から60名ほどが集まり、様々な種目をローテーションしながら楽しんだ。一関市障がい者スポーツ協会は障がい者団体が中心となり、市の体育協会のバックアップを受けて運営している。このような活動拠点となる組織が実施する事業に運営協力することもスポーツ参加環境整備の1つの方法であると感じた。



▲卓球バレーはどこに行っても人気です！

ボッチャ体験教室を開催！

- ◆令和2年1月22日（水）
- ◆会場：雫石町総合福祉センター（雫石町）
- ◆レポート：雫石町の身障者団体を対象としてボッチャ教室を行った。雫石町では久しぶりの事業であった。この日はかなり冷え込んでいたが、会場は暖房もあり、快適にボッチャを楽しむことができた。事前準備では正式なコートサイズを作成していたが、エンドラインを半分にして楽しんでいただいた。この会場では、ミニコートにすれば3コートは作成できる。ミニ大会の開催も可能である。今度は是非、大会やりましょう！



▲ボッチャのルールは簡単なので、すぐに試合を楽しむことができ皆さん、夢中になりますね～

ユニバーサルスポーツ体験教室@夢アリーナたかたに参加しました！

- ◆令和2年1月25日(土)
- ◆会場：夢アリーナたかた(陸前高田市)
- ◆レポート：あすなるホームの皆さんを中心に、40名ほどが参加。企画・運営は「総合型リくぜんたかた」が担当。当協会や県体協、陸前高田市体協、大船渡市スポーツ推進委員が指導にあたった。全体を6班に分けてポッチャと卓球バレーを楽しんだ。会場の夢アリーナたかたは、三陸地域屈指の体育施設であり、今後はこの施設を活用したイベントを定期的に企画したい。



ポッチャ体験教室(第1回アンバーカップ)を開催しました！

- ◆令和2年2月15日(土)
- ◆会場：久慈第二体育館(久慈市)
- ◆レポート：久慈市スポーツ推進委員協議会の共催事業として開催しました。久慈と言えば、「あまちゃんカップ」でおなじみです。地方発の卓球バレー推進組織である「久慈地域卓球バレー協会」を設立。卓球バレーとともにポッチャにも取り組むこととなりました。今回ポッチャ指導のリクエストだったのですが、サプライズ(思い付きでしたが)で大会を開催しました。大会名はあまちゃんカップに対抗して久慈市の琥珀にちなんで「アンバーカップ」としました。参加者を6チームに分けて、それぞれが試合と審判体験をして順位を競いました。ミニコートを使用して、子どもたちも大健闘でした。これがポッチャの面白いところですね～こんなに簡単に大会が開催できちゃうことを実感していただければ幸いです。



▲①最初はルール説明です。②そしていきなり大会開催を宣言！6チームを2つのグループに分け、リーグ戦を行いました。審判は試合のないチームが担当しました。③子どもチーム対大人チーム。どっちが近いかな。真剣勝負です！

ボウリング奥州交流大会を開催！

- ◆令和2年2月20日(木)
- ◆会場：ボウリング・クオリア(奥州市)
- ◆レポート：ボウリングは年間を通して楽しむことができるスポーツとして身障者の間でも人気があります。さて、今年度も奥州市にあるボウリング・クオリアを会場に交流大会を開催しました。今回は、申込クラスを障がいの有無に関わらず参加できるオープンの部、障がいのある方の一般の部とキッズレーンの部としております。当日は40名ほどの方が参加して、2ゲームを行い合計点数にて順位を競いました(右表参照)。なお、新型コロナウイルス感染症が心配され始めており、参加賞としてマスクを配布させていただきました。皆さん、十分に留意していただき、また様々なイベントに元気で参加していただくことをお祈りいたします。

◆一般の部(男性部門)
第1位/千田 長(胆沢) / 269点
第2位/菊地 孝男(江刺) / 261点
第3位/佐藤 英治(胆沢) / 250点
◆一般の部(女性部門)
第1位/柳沢 キ工(北上) / 226点
第2位/葛尾 文子(花巻) / 206点
第3位/佐々木喜代子(花巻) / 176点

◆オープンの部(男女共通)
第1位/伊藤三智子(一関) / 268点
第2位/伊藤 茂(一関) / 209点
第3位/高橋 彩香(胆沢) / 194点
◆キッズレーンの部(男女共通)
第1位/小野寺 功(胆沢) / 215点
第2位/千田 勉(胆沢) / 208点
第3位/菅原 健一(水沢) / 185点



▲①ボウリングクオリアは1~2レーン側は車いすでのプレーに適している。また、フロアとレーンの段差部分は簡易スロープでの対応となる。②ボウリングは、身障者の愛好家も多い。キッズレーンも自動設定で快適。③表彰式は別会場で昼食をとった後に行いました。

3月の県主催事業はすべて中止となりました

新型コロナウイルス感染拡大防止に対する県担当課の方針を受け、2月27日より、3月末までの県主催事業については中止とした。中止になった事業は30以上になります。すでに参加募集のご案内をして100名以上の申込があった事業もあり、非常に残念ですが、一刻も早い終息を祈ることしかできない状況です。

なお、中止となった中級障がい者スポーツ指導員養成講習会の後期日程の対応につきましては後ほど受講者の皆様にご案内いたします。



▲今年度の中級障がい者スポーツ指導員養成講習会も前期日程は順調に終了したが・・・

会員紹介 -Our Partners-



(令和元年 12月26日現在 敬称略・順不同)
いつもあたたかいご支援をいただきありがとうございます！

賛助会員一覧 (団体)

(一社)岩手県建設業協会	(株)やよいデイト	(有)タイガースポーツ	名鉄観光サービス(株)盛岡支店
(株)IBC 岩手放送	岩手電工(株)	(一社)岩手県医師会	(株)カガヤ
(株)北日本銀行	(株)アイシーエス	(株)岩手日報社	(株)久慈設計
いわて生活協同組合	(株)志百家	(一社)岩手県理学療法士会	(株)ヴィクトリア ネクススカンパニー
(株)明和土木	(株)ヤマイチ	岩手トヨペット(株)	(株)長谷川建設
白金運輸(株)	小岩金網(株)	(株)中野製麺	岩手リオン補聴器センター
菱和建設(株)	(株)藤沢体育堂	(株)宮澤商店	宮城建設(株)
盛岡商工会議所	(株)寿広	(株)遠忠	みちのくコカ・コーラボトリング(株)
(株)青紀土木	(株)川徳	(株)テレビ岩手	(株)ユニバース
(株)菊地建設	岩手雪運(株)	(株)小林精機	岩手スポーツ用品販売(株)
(株)アイエムアイ	(株)日盛ハウジング	岩手県産(株)	府金製粉(株)
江刺岩手ライオンズクラブ	岩手電力(株)	日本身体障害者団体連合会東北事業所	

賛助会員一覧 (個人)

内山 順一	菅 里美	平藤 淳	藤村 誠	堀川 裕二	白畑 由貴子
-------	------	------	------	-------	--------

バナー広告掲載中！

賛助会員のバナー広告は無料で掲載しております。現在、以下 27 団体のバナー広告を掲載中。その他、掲載依頼がありましたら随時、当協会 HP にアップいたします。詳細につきましてはお問合せ下さい。

正会員一覧 (団体)

岩手県知的障害者ソフトボール協会いわてスマイリーズ	(社福)岩手県社会福祉協議会	(社福)岩手県社会福祉事業団
(一社)岩手県作業療法士会	(株)トラスト保険	サークル「ゆうの会」
(NPO)岩手県精神保健福祉連合会	全国脊髄損傷者連合会岩手県支部	岩手県知的障がい者サッカー連盟
ドルフィンズ岩手	(社福)自立更生会	(社福)岩手県視覚障害者福祉協会
岩手県特別支援学校連絡協議会	岩手チェアスキークラブ・イーハトーブ	岩手県 ID バasketボール連盟
(社福)岩手県身体障害者福祉協会	(社福)手をつなぐ	ラッセル岩手

正会員一覧 (個人)

佐藤 慎二	藤井 公博	伊藤 昇	高橋 修	民部田 誠	畠山 哲男	三浦 拓朗
佐藤 勝士	白藤 友一	笹木 正	今宮 正彦	横沢 高德	上村 弥	阿部 史憲
佐藤 佑哉	及川 貞之	佐藤 隆秀	野辺地 省吉	佐々木 満	井上 勝巳	篠原 政良
中野 正紀	佐々木 君夫	菊池 幸子	井上 君之	菅原 幸二	軽石 義則	佐々木 茂
小坂 亜純	小江 巧	岩淵 典仁				

◆会員の募集について◆
「Sports For All」の考えに基づき、障がいのある方が一人でも多く、いつでも気軽にスポーツに参加できるように取り組んでまいります。皆様のご支援、ご協力をお願いいたします！

区分	金額
賛助会員	個人 1口 1,000円
	団体 1口 10,000円
正会員	個人 1口 1,000円
	団体 1口 5,000円

*** 問合せ先 ***
〒020-0831 盛岡市三本柳 8-1-3
(一社)岩手県障がい者スポーツ協会
TEL 019-637-5055
FAX 019-637-7626
E-mail : info@iwate-adaptive.or.jp
<https://www.iwate-adaptive.or.jp/>